

- ① 描写に込められた作者の意図を考えながら読む。
- ② 小説のテーマは何か、考えながら読む。

## 確認

## 文章の流れをつかもう

「蜘蛛の糸」の内容を、場面と物語の流れに沿って次のようにまとめました。①～⑤にあてはまる言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

蓮池の縁をお歩きになっていらつしやる。  
たたずみ、下の様子をご覧になると健陀多がお目にとまる。  
健陀多には蜘蛛を助けたことがあるのをお思い出しになる。

「蜘蛛の糸をお取りになって、地獄の底へ

①

他の罪人と一緒に、浮いたり沈んだりしている。

「血の池の空を眺めると、遠い天上から、蜘蛛の糸が

②

蜘蛛の糸をつかんで上へたぐり上り始める。  
数かぎりもない罪人たちが

③

のを見て

「この蜘蛛の糸は

④

。」とわめく。

「蜘蛛の糸がぶつりと切れる。」↓血の池の底へ石のように

⑤

## 二. (地獄の底の血の池)

健陀多

## 三. (極楽の昼近く)

お釈迦様

一部始終を見ていたが、ぶらぶらお歩きになり始める。

- ア 沈んでしまう  
イ おおろしなざった  
ウ よじ上ってくる  
エ 俺のものだぞ  
オ 垂れてまいる

## 確認

## 主題をつかもう

次のあらすじを読んで、作品の主題としてふさわしいものをあとから選び、記号で答えなさい。

お釈迦様は、生前に一度だけ蜘蛛を助けた報いに、大どろぼうの健陀多を地獄の底から救い出してやろうと、極楽から蜘蛛の糸を垂らす。健陀多は一生懸命に蜘蛛の糸を上るが、自分だけが助かるうとして、他の罪人に「下りろ。」と言ったため、糸は切れ、また地獄へ落ちてしまう。

- ア 人からの恩を仇で返すようなことはしてはならない。  
イ 小さな生き物を大切にすることが大切である。  
ウ 善い行いも悪い行いも、必ず自分に返って来る。

参  
考  
資  
料

## 【作者紹介】

芥川龍之介

一八九二年～一九二七年。東京帝国大学在学中に夏目漱石の門

下に入り、『鼻』が漱石の激賞を受けて作家活動に入る。古典を現代人にわかりやすく書きかえる手法を得意とし、日本の近代文学に理知的な作風を確立した。絵の才能もあり、河童を好んで描いた。

## 漢字の読み書き

次の——線の漢字はひらがなで、カタカナは漢字で書きなさい。

- (1) 花が咲く  (2) シートで覆う  (3) 天国と地獄  
 (4) 水晶の原石  (5) 透き通った羽  (6) 一緒に戦う  
 (7) 道端の石ころ  (8) 足を踏む  (9) 宙に浮かぶ  
 (10) 気分が沈む  (11) 暗闇を歩く  (12) 一生懸命に走る  
 (13) 途中で引き返す  (14) 後ろに隠れる  (15) 肝腎な部分  
 (16) ヒトリ言を言う  (17) いい二才いがする  
 (18) 夕え間なく流れる水  (19) よいケシキだ  
 (20) 水中メガネ  (21) ごらんください  
 (22) 病人をスクウ  (23) オソろしい体験をする  
 (24) 細いハリで縫う  (25) おハカ参りをする  
 (26) 過ちをせめる  (27) 看病でツカれる  
 (28) 糸がタれる  (29) ナれた手つき  
 (30) ヨウイな手続き

## 重要な語句

次の言葉の意味を答えなさい。または、その言葉を使った例文を書きなさい。

④	③	②	①
いあさまし	一部始終	報い	目にとま
例文	例文	例文	例文
意味	意味	意味	意味
	その事件の一部始終を目標した。	自分の行いの結果として、身に受けるもの。	見える。目につく。
例文			
意味			

**問題** 次の各文の空欄にあてはまる言葉を、「重要な語句」の中から選び、書きなさい。

- (1) 会話の  を録音しておく。  
 (2) 自分だけ得をしようなんて、 考えた。  
 (3) 宿題を後回しにしていた  を受ける。  
 (4) 部屋のすみに置かれた箱が  。

次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

20 15 10 5

□(1) — 線①「お目にとまりました」とありますが、誰の目にとまったのですか。文章中から書き抜きなさい。

□(2) — 線②「それだけの善いことをした」とありますが、健陀多がした善いこととは何ですか。「……こと。」に続くように文章中から十三字で書き抜きなさい。


□(3) — 線③「この男を地獄から救い出してやろうとお考えになりました」とありますが、お釈迦様は、どのように健陀多を救い出そうとして、どんなことをしましたか。文章中の言葉を使って書きなさい。

□(4) A にあてはまる言葉は何ですか。文章中から四字で書き抜きなさい。

--	--	--	--



## 読解のコツ

◎描写に込められた作者の意図を考えながら読む。

描写とは、ものの様子を示す表現のことです。

↓学習のねらい①

「さすが大どろぼうの健陀多」(本文26～27行目)

生前の健陀多が「人を殺したり家火をつけたり、いろいろ悪事をはたらいた」(本文2～3行目)人間であることを「さすが(大どろぼうと呼ぶにふさわしい)」という言葉に込めて表している。

「遠い遠い天上から」(本文30行目)

お釈迦様がいる極楽と、健陀多がいる「地獄の底の血の池」(19行目)が遠くへだたった異世界であることを示すと同時に、二つの世界が蜘蛛の糸を通してつながろうとする物語の展開を示している。

描写は、作者がその人物を肯定的に描こうとしているのか、否定的に描こうとしているのか、その場面で何を強調したり、暗示したりしようとしているのかといった、作者の意図を知る手がかりになります。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(芥川龍之介「蜘蛛の糸」より)

30

25

□(5) — 線④「それ」の指しているものは何ですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 健陀多が助けた蜘蛛

イ 健陀多が助けた蜘蛛の糸

ウ 極楽の蜘蛛

エ 極楽の蜘蛛の糸

□(6) — 線⑤「さすが大どろぼうの健陀多」とありますが、健陀多がどのような罪を犯したことを「さすが大どろぼう」と言っているのですか。文章中から三十文字以内で探し、初めの四字を書き抜きなさい。

□(7) Bには同じ言葉があてはまります。その言葉を考えて、ひらがな三字で書きなさい。

□(8) — 線⑥「遠い遠い天上から」とありますが、この描写に込められた作者の意図として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。  
ア 天上と地獄を、まったく関わり合いない世界として示す意図。  
イ 健陀多が天上まで行くことは不可能であることを暗示する意図。  
ウ 天上と地獄という遠く離れた異世界がつながる展開を示す意図。  
エ 健陀多を救おうと考えるのは、まちがいであることを示す意図。

次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

20 15 10 5

□(1) —線①「恐ろしい」とありますが、健陀多はどうなることを「恐ろしい」と考えているのですか。「重み」「地獄」という言葉を使って書きなさい。

□(2) —線②「目ばかり動かしてありました」とありますが、この描写が表している健陀多の様子として適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。  
ア 何と言えば罪人たちが上るのをやめるか考えている様子。  
イ 自分の後をつけてくる罪人たちの動きを見ている様子。  
ウ むやみに動いて蜘蛛の糸が切れないように用心する様子。  
エ 糸を上るのに疲れ切って体を動かすことができない様子。

□(3) —線③「うようよとはい上がって」、④「一列になりながら、せつせと上って」くる罪人たちの様子を、たとえを使って表しているところを文章中から五字以内で書き抜きなさい。

□(4) —線⑤「あとにはただ……短く垂れているばかりでございます」とありますが、この描写の説明として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 蜘蛛が、健陀多の心の醜さを罰したことを表す。  
イ 切れる前と変わらない糸の美しさを客観的に表す。  
ウ 罪人の重みで糸が切れたのは当然であることを表す。  
エ 罪人が極楽へ行くことは不可能であることを表す。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(注) 無慈悲…思いやりやあわれみの心がないこと。

うてな…ここでは、花びら。 ずい…花の中心にあるおしべやめしべ。

芥川龍之介「蜘蛛の糸」より

30

25

## 読解のコツ

◎小説のテーマは何か、考えながら読む。

↓学習のねらい②

「お釈迦様は…悲しそうな顔をなさりながら」(本文25～27行目)

「お釈迦様のお目から見ると、あさましくおぼしめされたのでございませう」(本文29～30行目)

↔ お釈迦様の心理描写と対照的な、背景の蓮池の蓮の描写。  
 「極楽の蓮池の蓮は、少しもそんなことには頓着いたしません」

(本文31行目)

自分勝手な韃陀多の行動を悲しむお釈迦様の心情に関係なく、変わらない蓮池の蓮の描写が、人間もお釈迦様も包み込む、より大きな世界の存在を暗示しています。

□(5) — 線⑥「自分ばかり地獄から抜け出そうとする」とありますが、これは、

韃陀多が何をしたことを指していますか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 上ってくる罪人どもに「下りろ。」とわめいたこと。

イ 上ってくる罪人どもを足でけり落とそうとしたこと。

ウ 自分のすぐ下で蜘蛛の糸を切ろうとしたこと。

エ 自分だけ急いで蜘蛛の糸を上ろうとしたこと。

□(6) — 線⑦「その心相当な罰」とありますが、韃陀多が受けた「罰」とは具体的にどのようなことですか。文章中の言葉を使って書きなさい。

□(7) お釈迦様は韃陀多がやったことをどう思い、どんな気持ちになりましたか。それぞれ五字以内で書きなさい。

韃陀多のやったことに対する思い…

お釈迦様の気持ち…


□(8) — 線⑧「なんともいえないよい匂いが…あふれております」という描写は、どのような様子を表していますか。「お釈迦様の…」に続くように、「悲しみ」「関わり」という言葉を使って二十字以内で書きなさい。

お釈迦様の




# 蜘蛛の糸

1 次の文の空欄( )にあてはまる言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

2点×9 18点

□(1) ある日、お釈迦様は、極楽の蓮池から地獄の底をご覧になり、

いる健陀多に目をとめた。お釈迦様は、生前の健陀多が蜘蛛を助けたことの

報いに、健陀多の前に極楽の (2) を垂らしてやる。 (3) 健陀多は、

地獄から抜け出そうとして一生懸命に蜘蛛の糸を上る。他の罪人たちも蜘蛛

の糸を上ってきたが、糸が切れることを (4) 健陀多は「下りろ。」と言う。

すると、糸はぷつりと切れ、健陀多はまた地獄へ落ちてしまう。お釈迦様は

一部始終を見届けると、悲しそうな顔をなさりながら歩いていく。極楽の

蓮池の蓮はそんなことには (5) 、辺りへよい匂いをあふれさせていた。

ア 針の山 イ 血の池 ウ 悲しんだ エ 喜んだ オ 恐れた

カ 無頓着に キ 無慈悲に ク 蜘蛛の糸 ケ 蓮の根

□(2) この小説からは、行いに応じた報いがあることなど、いくつかの (1)

を読み取ることができる。それと同時に、多様な解釈も可能である。地獄か

ら抜け出そうと必死に蜘蛛の糸を上り、糸を独り占めしようとして失敗する

健陀多は、人間の弱さや醜さをよく表している。健陀多を「 (2) 」思う

お釈迦様は、人間とは対極の存在といえる。しかし、小説の初めと終わりに、

健陀多にもお釈迦様にも頓着しない極楽の (3) が描かれることによって、

これらのすべてを包み込む、より (4) 世界・視点が暗示されている。

ア 蓮池の蓮 イ あさましく ウ 大きな エ 教訓

2 次の ( ) 線の漢字はひらがなで、カタカナは漢字で書きなさい。

2点×12 24点

□(1) 極楽浄土 □(2) 一匹のうさぎ □(3) 驚いた顔

□(4) 読むに堪えない □(5) 恩に報いる □(6) 無慈悲な態度

□(7) ひまわりがサク □(8) スき通った水 □(9) 石をフむ

□(10) チュウト半端 □(11) 穴の中にカクれる □(12) バツを受ける

3 次のア～カの各文のうち、( ) 線の使い方が正しいものをすべて選び、記号で答えなさい。 完全 8点

ア 敵に見つかからないように、むせびながら暗い廊下を慎重に進んだ。

イ 耳をすますと、かすかに人の話し声が聞こえてきた。

ウ 友達に借りたおもしろいまんがを読んで無慈悲に笑い転がっている。

エ 借りた本を汚してしまったので同じ本を買って報いなければならぬ。

オ 君ほどの実力があれば、県大会への出場も存外夢ではないよ。

カ 頼まれたことをみんな引き受けるなんてあさましいほど人がいいね。

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

50点

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(芥川龍之介「蜘蛛の糸」より)

□(1) IとIIについて、次の問いに答えなさい。

A IとIIの場所を、それぞれ二字で答えなさい。

I

II

3点×2 6点

B IとIIの関係として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア IとIIの間ははっきり断絶している。

イ IとIIはどこかでつながっている。

ウ IからIIへは自由に行くことができる。

エ IIからIの様子を見ることが出来る。

8点

□(2) —線①「地獄の底」の様子について説明した次の文の  a、d に

あてはまる言葉を、a・b・cは三字、dは六字で文章中から書き抜きなさい。

3点×4 12点

a  な状態で、 b  がたまに見えるだけで、 c  以外には何も聞  
 こえないほどしんと d  いる。

c

d

a

b

□(3) 血の池にいる健陀多の様子を、たとえを使って表した言葉を文章中から七

字で書き抜きなさい。

12点

□(4) —線②「まるで人目にかかるのを……ではございませんか」とありますが、これを見つけた健陀多の気持ちとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

12点

ア たまたま糸を見つけたが、不思議だ。

イ 見てはいけないものを見てしまった。

ウ 糸は自分のためだけに垂れてきたのだ。

エ 他の罪人にも糸のことを教えてやろう。